

H28年産牧草サイレージの品質と給与

生育中のチモシーおよびサイレージ分析結果から、H28年産1番牧草サイレージの品質と給与時の留意点を解説します。

出穂期は平年より4日早まったが、収穫は5日遅れた

牧草の生育期間の気温は、5月は高く、6月は低温で推移しました。その結果、出穂期は早まりましたが、その後の生育は緩やかに進みました。収穫期は6月下旬の降雨で平年より5日遅れました。生育停滞で、収穫を遅らせるケースもありました（表）。

	萌芽期	出穂始	出穂期
H28	4/20	6/13	6/18
平年	4/25	6/18	6/22

	収穫始	収穫期	収穫終
H28	6/28	7/3	7/12
平年	6/22	6/28	7/12

表 H28年の牧草生育(上)と収穫状況(下)

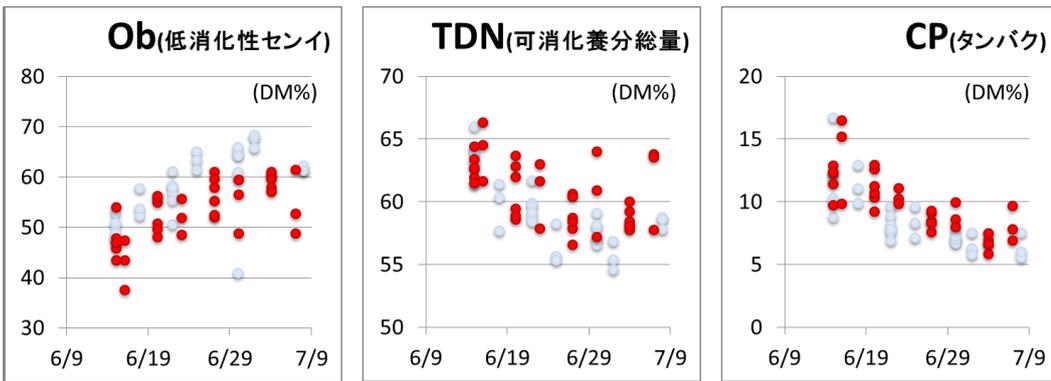


図1 チモシーの栄養成分の推移（濃い丸：H28年 薄い丸：H27年）

図1は、チモシー生育期間の生草分析結果です。栄養の低下は緩やかで、特にセニイの割合が低く推移しました。昨年に比べ、刈遅れによる栄養低下は少ない傾向です。

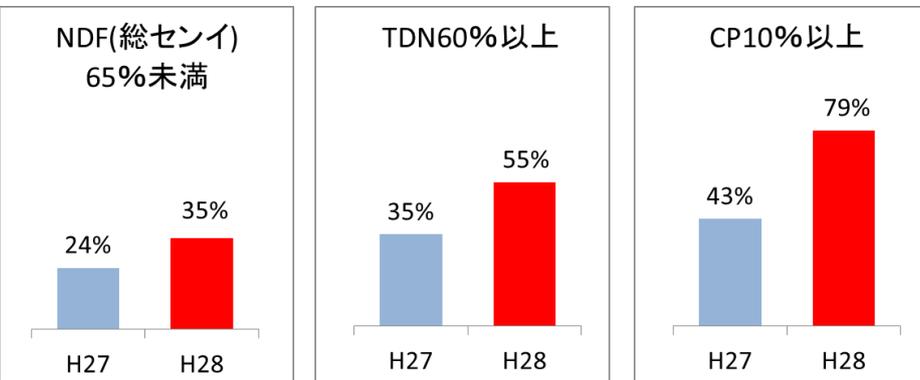


図2 良質な栄養価のサイレージ割合

※各栄養成分の良質とした目標数値は暫定値

図2は、分析した細切サイレージ(85点)の内、良質な成分値の割合を示したグラフです。昨年に比べCPやTDNが高い傾向となっています。

サイレージの分析結果も栄養価は高い傾向(前年比)

H28年産サイレージ 給与時の留意点

○粗飼料の確保量をチェック

セニイ分の少ない牧草サイレージの給与で、食い込み量を増やすことができます。粗飼料が確保できていれば、ピートパルプなどを減らすことも可能です。一方、粗飼料が確保できていなければ、ピートパルプやルーサンヘイ、大豆皮などを給与し、不足に備えてください。

○2番草の単独給与を避ける

8月からの多雨により、2番の収穫は大幅に遅れ、品質の低下が心配されます。牛の体調を崩さないよう、1番草やコーンサイレージとの併給など、2番草のみの単独給与を避けましょう。

○粗飼料を分析しましょう

牧草成分にバラツキが大きい傾向があります。また牧草水分が高いと、酪酸発酵の可能性があり、まずは粗飼料分析を実施し、適切な飼料給与に役立てましょう。